



初期共和主義・民主主義・労働者運動史と公共圏に関する研究

[キーワード: 近代ドイツ, 共和主義・民主主義運動, 労働者運動, 対抗的公共圏]

准教授 今井晋哉

<研究の概要>

1830年代にパリに流入したドイツ人手工業職人たちが、ドイツを追われ、あるいは逃れてきた自由主義・共和主義・民主主義的傾向の知識人たちと出会うことで創始された社会変革運動の成立過程と発展史、またそうした運動の影響を受けつつやはり手工業職人層と知識層とによってドイツ領内につくられていった労働者教育協会の運動史を対象としている。とくに1848/49年革命期にハンブルクの政治体制の変革を求める運動のなかで教育協会が市民層の諸結社とどのような連携関係を構築しつつあり、またインターローカルな運動の形成にどのように参画していったのか、このような諸局面に即して、主に運動が「対抗的公共圏」をどのように構築しようとしたのかという点から運動史の再検討を試みている。

これらの運動において目指されたことは、要約すると政治的民主主義の実現、社会経済的諸関係の変革を通じた貧困の解決と階層間差別の撤廃、社会的共助の試みとしての協同組合の創設と協同陶冶であった。対象とする時代のこれらの運動史は、いずれの課題についても十分な成果を上げたとは言いがたい、社会主義的労働者運動史の源流と位置づけられてきたことから、近年ではあまり注目されなくなっていた。だが今日、新自由主義的市場経済の世界化が世界各地で格差の極大化・貧困の深刻化をもたらし、さらに民主主義の質それ自体が問われるなか、改めて対抗的公共圏の構築・発展を展望するうえで、草創期の社会変革運動について、運動の方法、とくに対外宣伝・他地域の運動組織との情報交流・組織内の討論および協同学習過程のありようという点から再審することも、一定の意義をもつのではないかと考えている。

<主要研究業績>

【論文】

今井晋哉・藤田幸一郎(1995年)「ドイツにおける労働者階級形成論—ユルゲン・コッカの近著を手がかりに」『社会経済史学』第60巻6号、61-85頁。

今井晋哉(1999年)「ドイツ初期労働者運動における『一般教育』(1)—ハンブルク『労働者教育協会』の結成目的と初期の活動内容について」『帯広畜産大学学術研究報告 人文社会科学論集』第10巻第2号、35-78頁。

今井晋哉(2010年)「労働者教育, 社会的自助, 公共圏への参加—ハンブルクの初期労働者運動の経験から」加藤哲郎・今井晋哉・神山伸弘(編)『差異のデモクラシー』日本経済評論社、151-178頁。

今井晋哉(2016年)「亡命者と遍歴職人がみた復古体制下ドイツの状況と変革への第一歩—パリの『ドイツ人民協会』の運動(1832-34年)」『徳島大学総合科学部 人間社会文化研究』第24巻、93-112頁。

専門分野: ドイツ近代社会運動史

E-mail: shi-imai@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7139